

令和２年度むらづくり審査にあたり

講評：中国四国農政局むらづくり審査会 主査 横溝 功



令和２年度農林水産祭むらづくり部門中国四国農政局表彰式

令和２年 11 月 27 日 岡山市

審査会の委員を代表いたしまして、受賞団体ごとに審査講評を述べさせていただきます。

◆一般社団法人 宇治雑穀研究会

岡山県高梁市宇治地区は、標高 360m の高梁市西北部に位置します。早くから U ターンや I ターンの定住対策にも取り組んでいます。以下、宇治雑穀研究会の評価すべき点をあげます。

第 1 に、「宇治地域まちづくり推進委員会」が、人口減少や担い手不足の課題解決を目指して、平成 6 年に設立されました。一時期、活動が低迷するも、U ターンや I ターンの交流や支援のための組織が立ち上げられ、その流れの中で、平成 24 年に、宇治雑穀研究会が結成されました。

第 2 に、具体的には、宇治雑穀研究会では、耕作放棄地の解消と地域の特産品の開発のために、もち麦の栽培を開始しています。

第3に、平成29年には、任意団体から、一般社団法人へと法人化しています。会員は、当初の4名から27名へと、地域と一体となった取り組みになっています。

第4に、27名のうち、男性が17名、女性が10名となっています。30～80代まで幅広い世代の参加が特徴です。また、Uターン3名、Iターン4名も含まれています。Iターンの4名の中で、2名は30代の元地域おこし協力隊員です。役員は、代表理事1名を含む理事4名、監事1名、相談役1名で構成されています。

第5に、品種の選択では、岡山県職員の紹介で、高知大学から「キラリモチ」の提供を受けています。また、西日本農研へ視察に行き、栽培方法を学び、備北広域農業普及指導センターの栽培指導を受けています。

第6に、もち麦による6次産業化にも取り組み、「ねじり菓子」、「もち麦シフォンケーキ」等の製品を製造し、県内約15カ所で販売しています。なお、加工部長は女性です。平成30年には、6次産業化法に基づく総合化事業計画が認定されています。

第7に、ビール麦にもち麦を10%配合したビールを完成させ、平成30年には、高梁市初の地ビールとしてOEMで販売を開始しています。

第8に、令和元年6月に、旧農協店舗を手作りで改装して、カフェ「麦」をオープンしています。毎週、月曜日の食事の提供とともに、直売コーナーでは、地元の農産物が販売されています。弁当の提供にも取り組んでいます。

◆高野地集落

愛媛県八幡浜市高野地集落は、海岸から直線で2km離れた標高200～300mの山間部に位置します。公共交通機関や商店はありませんが、自助や共助が発達した地域です。以下、高野地集落の評価すべき点をあげます。

第1に、高野地集落は、集落の58戸全戸で構成されています。うち、農家は32戸です。また、全農家が「高野地みかん組合」に参加し、にしゅう農業協同組合八協共同選果場に出荷される温州みかんの約25%のシェアを占めています。剪定や摘果講習会が開催され、地域の技術が伝承されています。新品種の導入、改植、ハード整備にも取り組み、後継者が11人育っています。

第2に、昭和50年から平成20年ころまでの温州みかんの価格低迷、平成25年3月の集落内にある長谷小学校の閉校に直面しました。そこで、果樹生産の周年出荷の強みを活かして、Uターン者の増加を目指しています。なお、平成23年に実施した「ふるさとづくりワークショップ」では、「四季百果 天空の里 高野地」をキャッチフレーズに決定しています。

第3に、農家は、現在、温州みかん以外に、落葉果樹、常緑果樹の施設栽培を取り入れ、1戸当たり平均経営面積は約1.8haに上り、果樹だけでの周年出荷が可能になっています。集落内には、温州みかん、中晩柑、キウイフルーツ、柿、

梨の部会があります。

第4に、小学校の閉校後、「長谷小学校跡地利用協議会」を結成し、跡地の有効利用を検討しています。当地の農業では、全国を回るアルバイトの雇用に大きく依存しています。それまでアルバイトは自宅での受入でしたが、令和元年8月に、「高野地雇用促進協議会」が結成され、「長谷小学校跡地利用協議会」が八幡浜市から校舎を借り入れ、「高野地雇用促進協議会」が、令和元年10月からアルバイトのためのシェアハウスとして利用することになり、アルバイト20名が、のべ900人利用しています。

第5に、農家女性8人で構成する農産加工グループ「高野地フルーツ倶楽部」が平成4年に結成されました。「ダルメイン・世界マーマレードアワード&フェスティバル」において、令和元年の八幡浜市開催では、プロの部のマーマレードで、金賞を、令和2年のイギリス開催では、銀賞を受賞しています。令和2年6月には、地域住民14名で「企業組合高野地フルーツ倶楽部」を設立しています。

第6に、令和元年8月開催の八幡浜暮らし体験ツアー（山コース）では、ツアー参加者の1名が、令和2年4月から地域おこし協力隊員になっています。

第7に、「八幡神社高野地神楽」、「ソフトクラブ」、「高齢者サロン」の文化活動にも取り組んでいます。

◆吉延営農組合

高知県長岡郡本山町は、約9割が急傾斜の山林で、集落や耕地は、標高250から740mに点在しています。古くから良質米の生産で有名です。しかし、平成17年から27年の10年間で人口が154人から115人に減少し、高齢化率が35.7%から40.9%に増加しています。以下、吉延営農組合の評価すべき点をあげます。

第1に、平成12年度に、集落全体で1協定を組織して、「中山間地域等直接支払事業」に取り組まれてきました。

第2に、平成19年1月に、高知県農業振興センターと連携して、「こうち型集落営農」のモデルとなりうる、吉延営農組合を設立しています。集落内の農家の8割強が参加しています。

第3に、平成22年には、ライスセンターを集落内に整備し、吉延営農組合が運営しています。その後も必要な農機具を整備しています。

第4に、海洋深層水の活用による実証栽培にも取り組みました。また、稲の品種では、食べ比べを行い、「にこまる」の評価が高く、「にこまる」を採用し、平成21年にブランド米「土佐天空の郷」を誕生させています。平成22年の静岡県で開催された「お米日本一コンテスト」では、最優秀賞を獲得しています。

第5に、イノシシによる水稻被害の増加に対して、集落全体を囲うように、3.5kmの防護柵を設置しています。その資材費を「鳥獣被害防止総合対策事業」から調達、設置作業の人件費や機械の借り上げ料を「中山間地域等直接支払事

業」から調達しています。

第6に、防護柵の設置作業、毎年の見回り点検や補修作業は、男性だけではなく、女性も参加しています。同様に、水路の掃除や育苗作業も、組合員一丸となって取り組んでいます。

第7に、平成22年度からは、「本山町特産品ブランド化推進協議会」が主催で、田んぼアートや棚田コンサートが実施されています。令和元年度には、「土佐れいほく博」の事務局から、棚田散策ツアーの打診があり、1年間に数回、延べ100名の参加者を受け入れ、営農組合員がガイドをしています。